

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立下里中学校 第1学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章読解では、登場人物の心情理解や筆者の主張を理解することにおいて、定期考査での正答率が67%である。 文章を書くことにおいて、話し言葉と書き言葉を区別して文章を書くことに課題の見られる生徒が20%程度いる。 漢字の読み書きにおいて定期テストでの正答率が50%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助教材（国語の学習）を使い復習を行うことで、単元ごとの理解度を高め、正答率70%以上を目指す。 年間を通して「条件作文」や「グループワーク」を行い、文章を書くことが苦手な生徒を5%程度減らしていく。 漢字を学習する機会を漢字ノートとプリントを使って設定し、定期考査、漢字テストをもとに評価し、正答率70%以上を目指す。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 小学校での学習内容が十分に定着していない生徒が全体の2割ほどいる。 基本的な計算問題には8割以上の生徒が解答できるが、正しい用語を用いて、自分の言葉で筋道を立てて説明をする力に課題がある。また、思考力や表現力を必要とする問題への解答率は3割程度で、すぐにあきらめてしまう傾向が強く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の目当てを明確にして、自ら進んで学習に取り組めるよう工夫する。授業内での話し合い活動や助け合い学習を多く取り入れ、分からないことを生徒同士が共有し、生徒が理解してから話を進めていく。 定期考査前に到達目標のプリントを配付し、学習の道標として活用し、平均点が65点以上となるようにする。 	
(英語) 外国語	<ul style="list-style-type: none"> 授業中意欲的に取り組むが、1割程度の生徒は教師からの指示を的確に理解できていない。また、学力差が大きく、家庭学習の習慣の定着に課題が見られる。 英語の4技能の中で、特に書く能力について課題の見られる生徒が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の指示は分かりやすさを意識し、ポイントとなる課題では机間指導を徹底して、一人一人の生徒の学習状況を確認する。 授業で使用するプリントを工夫し、生徒が英文を書きやすいものにする。定期的に単語テストを行い、定期考査の単語の問題の正答率を8割以上にする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題が理解できればほとんどの生徒が課題に取り組むことができるが、一斉指導の際個別指導が必要となる生徒が3割程度いる。思考・記述のスピードが速く時間前に課題が終わる生徒が1割程度いる。 都道府県や国名など、基本的な語句が十分に定着している生徒は1～2割程度である。 社会的事象について、1つの側面・視点で考える生徒がほとんどである。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示を分かりやすくし、パターン化・視覚化を行うことにより一斉指導の場合でも取り組める生徒の割合が90%になることを目指す。発展課題を用意し応用力をつける。(机間指導) スモールステップで覚える課題を長期休業の宿題としてテストを実施し正答率80%を目指す。 二つの視点又は側面で考えるよう課題を設定し、二つの視点・側面で思考し表現できる生徒の割合が50%になることを目指す。(ノート・定期考査の分析) 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 授業中の学習意欲は前向きであるが、知識の定着に時間がかかり、知識分野の定期考査の正答率が60%程度である。 論理的に考えることや文章で説明することに課題が見られる生徒が5割以上いる。 半数以上の生徒が基本的な数値計算に課題が見られるため、定量的な学習には抵抗感が強い。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な用語など、科学的な知識の定着のために、小テストなど反復して行い、知識項目の達成率80%以上を目指す。 実験等をレポートでまとめさせ、論理的に説明することを促し「思考」でのB評価が70%を超えるよう指導する。 数値計算については、スモールステップで単純なものから定着させ、定期考査等の「知識・技能」での達成率が70%以上を目指す。 	

東久留米市立下里中学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章読解では、登場人物の心情理解や筆者の主張を理解することにおいて、定期考査での正答率が66%である。 意見文などの文章を書くことにおいて、定期考査での正答率が60%である。 漢字の読み書きにおいて、定期テストでの正答率が50%である。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助教材（国語の学習）を使い復習を行うことで、単元ごとの理解度を高め、正答率70%以上を目指す。 ワークシートでまとめる力や意見文などの文章を書く力を身に付けさせ、正答率70%以上を目指す。 漢字を学習する機会を漢字ノートとプリントを使って設定し、定期考査、漢字テストをもとに評価し、正答率70%以上を目指す。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能では、分数を含む計算について課題が見られる生徒が多く、達成率50%未満の生徒が約半数いる。 思考・判断・表現では、論理的に考えたり、記述したりすることに課題が見られる生徒が約半数いる。特に、関数、数量や図形の論証に課題の見られる生徒が約6割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏季休業、冬季休業を活用して、個別に学習支援を行う。 毎時の授業で分かったという意識を持たせるとともに、授業で扱った箇所の問題集を家庭学習として主体的に学習する態度を育成する。 関数や図形では、できるだけ身近な具体的な事象を取り扱ったり、視覚的に捉えさせたりすることで思考力を高めさせるとともに、論理的に記述できるようトレーニングする。 <p>[目標] 定期考査、単元テストの平均65点以上 知識・技能、思考・判断・表現 各B以上の生徒65%以上</p>	
(英語)	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の観点では、定期考査の達成率が56.4%である。英単語や文法について十分に定着できていない。思考・判断・表現の観点では、52.3%である。英単語が分かっていても、それを文章にすることに課題の見られる生徒が半数存在している。 毎回事前に内容を予告している英単語のテストでは正答率が59.4%であった。事前に予告した問題を練習できていない生徒が4割程度存在している。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着を図るため、単語テストを作成し、反復する回数を増やし、定期考査の知識・技能の達成率を60%にすることを目指していく。 思考・判断・表現の定着を図るため、英作文プリントを作成し、知っている知識を表現できる回数を増やし、定期考査の思考・判断・表現の達成率を55%にすることを目指していく。 英単語のテストでは、よりスモールステップになるようなテストの作成をし、達成率を63%になることを目指していく。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 一斉指導の場合指示が理解できず、一斉指導の際に個別指導が必要となる生徒が3割程度いる。 社会的事象について主観的な考えにとどまり多角的な視点をもつための個別の指導を必要とする生徒が約9割いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示を分かりやすくし、パターン化・視覚化を行うことにより、一斉指導で取り組める生徒の割合が90%になることを目指す。(机間指導) 二つ以上の視点・側面で考えるよう課題を段階を分けて設定する。二つ以上の視点・側面で思考し表現できる生徒の割合が50%になることを目指す。(ノート・定期考査の分析) 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能における学習内容の単純記憶や基礎的な計算ができていない生徒が7割程度であるのに対し、思考・判断・表現における定期考査の達成率は5割に満たず、応用力に課題がある。 期間を置くと内容を忘れていたりなど、知識の定着に課題の見られる生徒が5割以上見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> スパイラル学習により、既習事項、他の単元とのつながりを意識し、2回に1回の授業の頻度で、定期的に既習事項の復習を授業内に取り入れ、「思考・判断・表現」観点の達成率が7割以上を目指す。 小テストなどで繰り返し知識の確認を行い、定期考査の「知識・技能」観点の達成率が常に8割以上を維持できるようにする。 	

【様式1】

令和5年度 授業改善推進プラン

東久留米市立下里中学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)	次年度に向けた 自己評価 (A・B・C)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章読解において登場人物の心情理解や筆者の主張を理解することに課題が見られる生徒が40%程度いる。 意見文や感想文といった文章を書くことにおいて30%程度の生徒が苦手意識をもっている。 漢字の読み書きにおいて全体の20%の生徒が漢字の書きに苦手意識をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して「ワークシート」や「単元テスト」を計画的に行い、文章読解が苦手な生徒を15%減らし改善する。 年間を通して「条件作文」や「意見文を書く」ことを行い、文章を書くことが苦手な生徒を10%減らし改善する。 年間を通して「漢字テスト」や「単元テスト」を行い、漢字の読み書きに対して10%以下まで苦手意識を減らす。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の観点では、定期考査の達成率が54.5%である。乗法公式やルートがついた数の扱い方について十分に定着できていない。このため、思考・判断・表現の観点で考え方が分かっているにもかかわらず計算ミスなどをしてしまい、達成率が47.5%となっている。 主体的に取り組む態度の観点では、定期考査の達成率が37.5%であり、事前に予告した問題を練習できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能の定着を図るため、練習プリントを作成し、反復する回数を増やし、定期考査の知識・技能の達成率を60%にすることを目指していく。 定期考査前に演習や補習の時間を設けて、予告した問題で分からないことがあれば質問できる時間をつくり、定期考査の主体的に取り組む態度の観点が45%になることを目指していく。 	
(英語) 外国語	<ul style="list-style-type: none"> 英文読解に関して、文章の長さ、難易度にかかわらず、「読むこと」に苦手意識をもつ生徒が60%程度いる。 単語や熟語表現、英文法に関する基本的な知識不足から、「書くこと」に苦手意識をもつ生徒が80%程度いる。 A L Tとのやりとりに積極的に参加することができず、「話すこと」に苦手意識をもつ生徒が40%程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通して英文を正確に読んでいく授業を行い、読解が苦手な生徒を15%減らし改善する。 年間を通して1、2年で学習した文法項目の復習を授業内でを行い、英作文が苦手な生徒を15%減らし改善する。 年間を通してA L Tとのアクティビティの回数を増やし、スピーキングテストに向けて英語を話すことが苦手な生徒を10%減らし改善する。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本的な内容や重要語句を正しく覚えている生徒が4割程度いる。 社会的事象について、多角的・多面的に考え表現できている生徒が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県名・国名・歴史と関わりの深い都市と位置のプリントを配布し定期考査などで出題し正答率70%の生徒が全体の80%になることを目指す。 授業において二つ以上の視点及び側面で考える課題を設定し評価を行い、二つ以上の視点および側面で思考し表現できる生徒の割合が70%になることを目指す。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な学習内容に関してはある程度定着しているため、定期考査の「知識・技能」の問題の正答率は60%を超えている。 半数以上の生徒がグラフの読み取りを含めた計算に課題が見られ、理論分野での定着は弱く、定期考査においても正答率は40%程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間の総復習教材や模試形式の教材を活用し、3年生の学習内容と並行して、1、2年生の復習も取り入れ、定期考査での知識・技能の問題の正答率70%以上を目指す。 実験レポートを作成をすることで、適切な数値の取り扱いと論理的な説明が行えるよう指導し、レポートにおける「思考・判断・表現」観点のB評価が70%以上を目指す。 	